

目次

1. 多摩市市制施行 50 周年記念事業の考え方と基本的な方針	3
2. 50 周年を迎えるまでのスケジュール	4
3. 多摩市市制施行 50 周年記念市主催事業	5
4. 50 周年キャッチコピー・50 周年ロゴマーク	7
5. 多摩市市制施行 50 周年記念市民事業	8
6. 多摩市市制施行 50 周年記念誌刊行事業	9
7. 多摩市市制施行 50 周年記念市民提案事業	11
8. 多摩市市制施行 50 周年記念式典	11

はじめに

2021年11月1日に市制施行50周年を迎えるにあたり、2018年1月に「多摩市市制施行50周年記念事業基本方針」を決定しました。この基本方針では「記念事業にオール多摩市で取り組み、いつまでも住み続けたいと思えるまちの実現につなげていく」こととし、記念事業として下記の事業を定めました。

- ・記念式典（市制施行50周年記念式典等）
- ・これまでの50年への感謝や今後の50年を見据えた企画を行う「市主催事業」
- ・市民が中心となり企画・実施される「市民事業」
- ・多摩市の歴史を知り、地域への愛着を育む記念誌を刊行する「記念誌刊行事業」
- ・市民団体や地域、企業等が実施し、市が後援し一緒に祝う「市民提案事業」
- ・一連の活動にロゴマーク・キャッチコピーを活用するとともに多摩市をPRする事業

本基本計画は、現在までの検討状況を踏まえ、各記念事業のコンセプトや骨格を定め、今後実施内容を具体的に検討するに当たり基本とするものです。本基本計画策定後、2019年度に（仮称）市制施行50周年記念事業実施計画を策定し、プレ事業や記念事業の実施に向けて具体的に検討していきます。

市制施行50周年記念事業を通じて、市民をはじめ、地域、学校、民間企業など、多摩市で活動する様々な主体が、これまで築いてきた歴史を振り返り、これから築いていく未来を見つめることで、「ふるさと多摩」への誇りと愛着が醸成される機会となるよう、記念事業に取り組んでいきます。

1. 多摩市市制施行 50 周年記念事業の考え方と基本的な方針

(2018 年 1 月に決定した基本方針より)

1 市制施行 50 周年記念事業の考え方

多摩市は、1971 年（昭和 46 年）11 月 1 日に誕生し、2021 年 11 月 1 日に市制施行 50 周年を迎えます。

多摩丘陵が広がる多摩市は、高度経済成長期におけるニュータウン開発により、新しく多摩をふるさととして移り住んで来た住民と、それ以前から多摩をふるさととしてきた住民が、この 50 年をともに歩み、そしてともに築き、他に類を見ない急速な発展をとげてきました。

この記念すべき市制施行 50 周年を、これまで市民が築きあげてきた、多摩の歴史を大切にしながら、これからの未来に向け、成熟した都市としてさらなる発展が遂げられるよう、子ども、若者、高齢者、障がい者、外国人等あらゆる市民が主人公として、それぞれが生きてきた証（ドラマ）を表現し、将来の多摩市民にこのまちの歴史のバトンを引き継ぎ、「ふるさと多摩」への誇りや愛着が醸成される記念事業にオール多摩市で取り組み、「いつまでも住み続けたいと思えるまち」の実現につなげます。

2 基本理念

市制施行 50 周年という大きな節目を、全市をあげて祝うとともに、歴史や文化、市民が築き上げてきた功績を見つめ直し、将来の明るいまちづくりのために、このまちに誇りを持ち、まちを愛する心をさらに深める機会とします。

市民をはじめ、地域、民間企業、各種団体、行政等、ともにまちづくりに関わる様々な主体が連携を行い、活力と創造性に満ち溢れ、光り輝く本市の未来を展望し、更なる飛躍・発展に向かい躍動する契機とするため、市制施行 50 周年記念事業を実施します。

3 実施方針

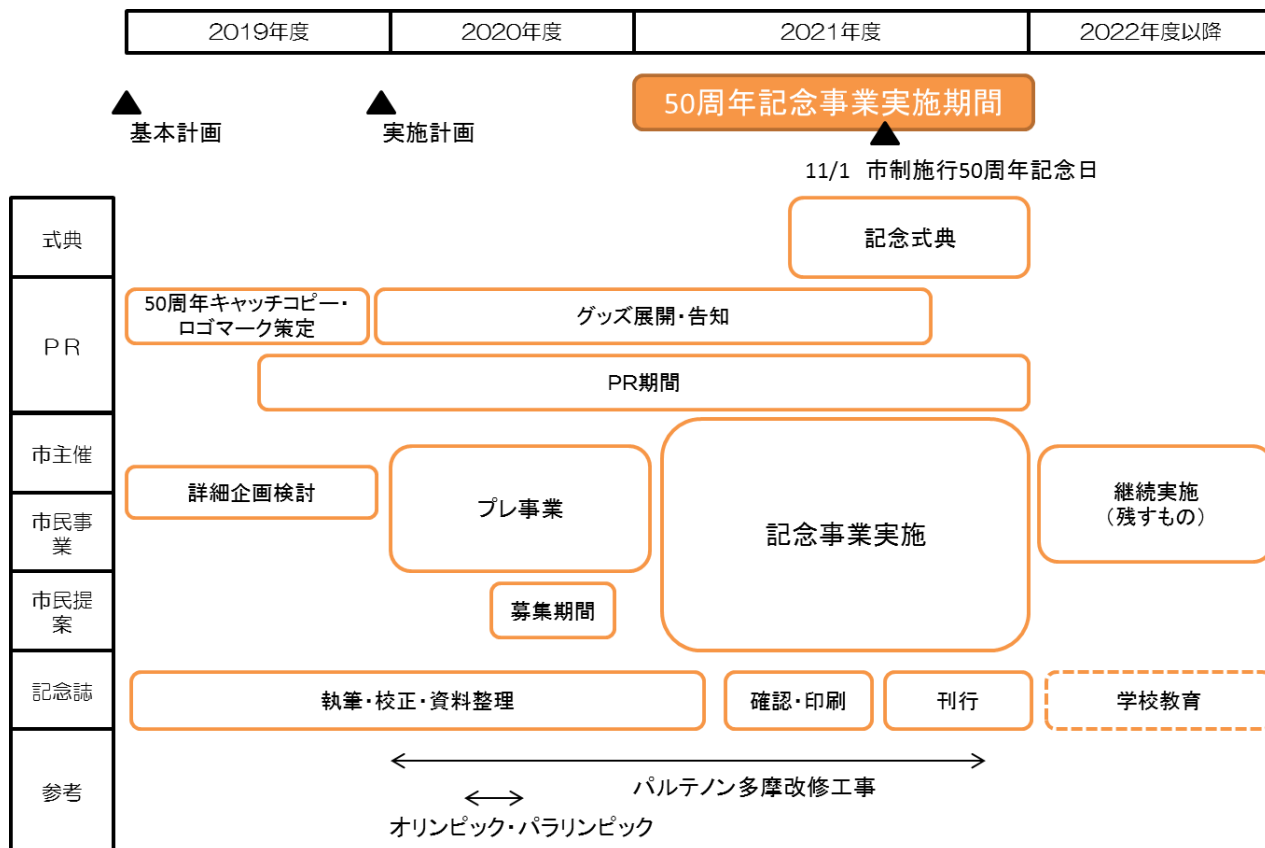
基本理念を踏まえ、以下の実施方針に基づいて記念式典、記念事業及び記念誌刊行からなる事業（以下「記念事業等」という。）を実施します。

- (1) 地域の魅力、歴史、文化を生かしながら、まちの価値をさらに高める
- (2) 市民が主体となり、人との交流を深め、つながりを深める
- (3) 本市の魅力を広く国内外に向けて発信する
- (4) 「ふるさと多摩」への誇りと愛着心を高め、その思いを未来へ引き継ぐ
- (5) 次世代を担う子どもたちの夢や希望を育む

2. 50周年を迎えるまでのスケジュール

2021年度に迎える50周年記念事業実施期間に向けて、2019年度よりPRを本格化し、50周年が近づくことを周知します。前年度の2020年には各種プレ事業を通じて、機運の醸成を図ります。記念式典や記念誌刊行は2021年度に実施し、50年のお祝いとその後の多摩市のまちの姿を考える機会とします。51年目以降の多摩市が市民にとって大切な場所になるよう2022年度以降も継続できる地域づくりの企画検討も行います。

2019年度	50周年キャッチコピー・50周年ロゴマークの策定
2019年度～2021年度	50周年キャッチコピー・50周年ロゴマークを活用したPR活動
2020年度	50周年記念プレ事業を実施し、機運醸成
2021年度	50周年記念事業実施期間
2021年11月1日	市制施行50周年記念日



2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会も50周年のPRの機会と捉え、プレ事業を通して取り組みを検討します。また、式典等の会場はパルテノン多摩の大規模改修の時期を踏まえ検討いたします。

3. 多摩市市制施行 50 周年記念市主催事業

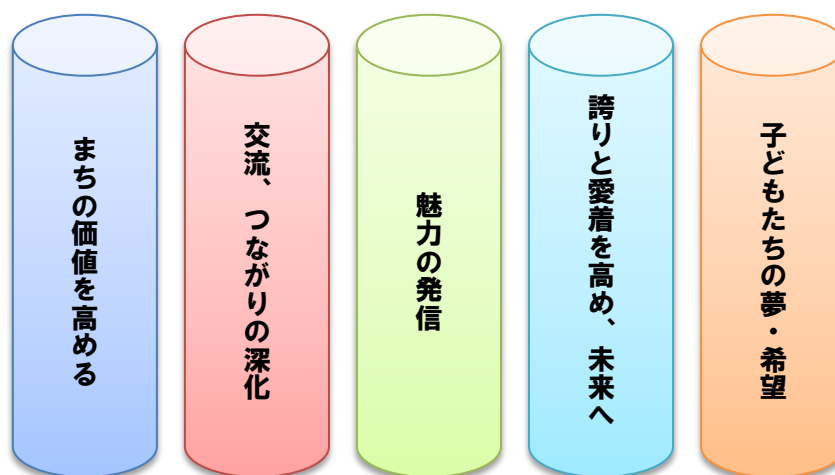
1 事業のねらい

市制施行 50 周年という記念の節目を、幅広く全市を挙げて祝うため、基本方針に定めた実施方針に基づき、市の冠事業のほか、これまで築いてきた多摩市の価値を振り返る企画や新たな未来のまちの姿を見据えた企画を実施します。

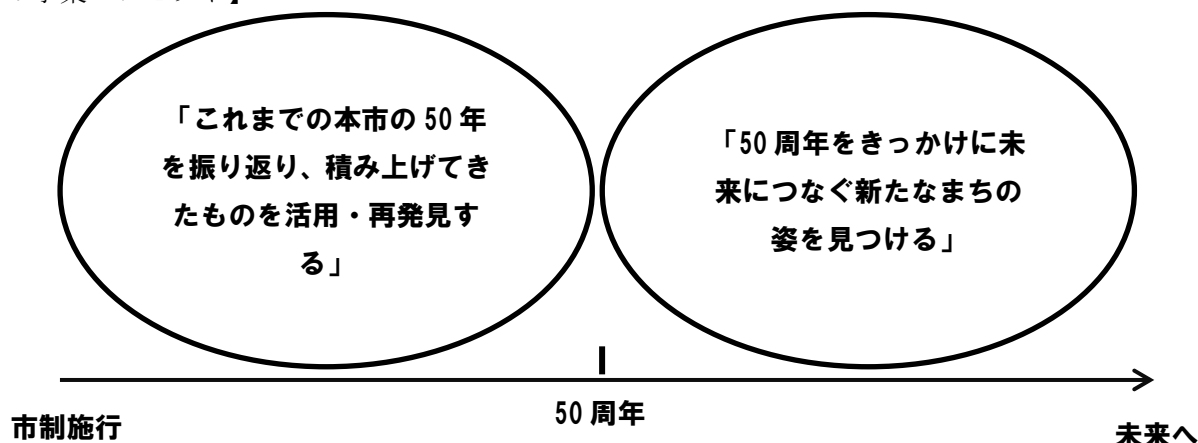
2 検討方針

記念事業等の企画・立案を行うために設置された市制施行 50 周年記念事業ワーキングチームを中心に検討を進め、市役所全体で実施していきます。事業の検討にあたっては、「基本方針」の 5 つの実施方針を柱とし、加えて「これまでの本市の 50 年を振り返り、積み上げてきたものを活用・再発見する事業」と「50 周年をきっかけに未来につなぐ新たなまちの姿を見つける事業」という 2 つの事業コンセプトを定めました。

【多摩市市制 50 周年記念事業基本方針の実施方針に定められた 5 つの柱】



【2 つの事業コンセプト】



3 想定される企画

市制施行 50 周年記念市主催事業は、5 つの柱と 2 つの事業コンセプトに基づき、10 の分類に区分し企画します。それぞれの区分ごとの想定される企画は次のとおりです。具体的な実施内容等については、今後策定予定の 50 周年記念事業実施計画に掲載します。企画案検討にあたり、徐々に機運を広めていくことができる性質の企画について 2020 年度からプレ事業として先行して実施します。具体的な事業詳細については、市役所に設置した市制施行 50 周年記念事業ワーキングチームにて検討します。

これまでの 50 年を振り返り、活用・再発見	【柱】	【想定される企画】
	まちの価値を高める	ニュータウン開発時等に整備された都市インフラを改めて見直すことのできる企画
	交流・つながりの深化	これまで市内で行われてきた様々な活動や人物に光を当てる企画
	魅力の発信	多摩市ならではの魅力を、市外に発信することのできる企画
	誇りと愛着を高め、未来へ	これまでの本市の歩みを、改めて市民が認識することのできる企画
	子どもたちの夢・希望	今回の 50 周年の節目の年を、子どもたちの記憶に残すことのできる行事の企画

50 周年をきっかけに未来の街の姿を発見	【柱】	【想定される企画】
	まちの価値を高める	地域資源を活用し、みんなが笑顔になれる新たなまちの魅力を創造する企画
	交流・つながりの深化	これまで繋がりの少なかった人や地域にも一体感が生まれる企画
	魅力の発信	ロゴマーク・キャッチフレーズなどを用いて、市外に本市のイメージを発信し特徴を理解することができる魅力の発見・発信を行う企画
	誇りと愛着を高め、未来へ	50 周年記念を形や思い出として未来に残す企画
	子どもたちの夢・希望	次世代のまちを担う子ども・若者に将来の多摩市に夢を抱ける・チャレンジできる企画

4. 50周年キャッチコピー・50周年ロゴマーク

1 事業のねらい

多摩市市制施行 50 周年記念事業及びその関連事業を盛り上げていくため、50 周年を PR するキャッチコピー及びロゴマークを公募・選定により決定します。

2 検討方針

(1) 50 周年キャッチコピー

ア. 作品の募集

多摩市に縁のある方や市内の小学校・中学校・高校・大学の協力を得て、広く案を募集します。

イ. 作品の選定

学校や公共施設等の協力を得ていただいた市民意見を踏まえ決定します。

(2) 50 周年ロゴマーク

ア. 作品の募集

市内外問わず、公募にて作品募集。決定した 50 周年キャッチコピーに合うアイデア・デザインを広く募集すると共に、市制 50 周年の PR だけでなく募集・選定の経過も含めて多摩市のイメージ向上のシティセールスにも役立てます。

イ. 作品の選定

市内企業や市出身・市に縁のあるデザイナー等の協力を得て審査予定です。

(3) 50 周年キャッチコピー・50 周年ロゴマークの選定・使用スケジュール

2019 年中に選定し、2022 年 3 月までに実施する 50 周年記念事業の PR に使用します。

(4) 50 周年キャッチコピー・50 周年ロゴマークの展開

50 周年記念事業のシンボルとし、市内での PR や市外でのシティセールス活動に活用します。

(活用例 案)

- ・市内各所に 50 周年を PR する横断幕・懸垂幕
- ・各種 50 周年記念グッズに印字・印刷、通常の市封筒や刊行物に印字・印刷
- ・50 周年記念の各事業のチラシや広報等に掲載
- ・シティセールス関連事業に掲載

(職員名刺への記載例)



5. 多摩市市制施行 50 周年記念市民事業

1 事業のねらい

市民事業は、市民が中心となり、多くの市民の参画をもとに、企画・実施する事業です。行政が決めたことを実施するのではなく、50年の歴史を築いてきた市民が主役となり、市民それぞれの持つ多種多様な生活を中心としたドラマを形にしたものを作成し、この街への愛着を醸成することを目指しています。

そのため、はじめから事業内容を具体的にイメージしたものではなく、市民目線でどういうことをしたいのか議論しながら進めていきます。

2 検討方針

なるべく多くの市民を巻き込みながら事業を実施していくことを目指しています。そのため、本市において地域に根差したイベント活動のノウハウやネットワークを持つ文化振興財団の協力・支援のもと、中心となるコーディネーターと事業案のたたき台を検討するコアメンバーを選定し、その後、実施の中心となる市民メンバーを公募して事業企画・実施案を練り上げていきます。

3 これまでの検討経過と今後の予定

(1) これまでの検討経過

① コーディネーターの選定

2018年度、市と文化振興財団とで、コーディネーターの選定について検討。地域で活動しており、多様な世代に向けた発信力、表現力を備えたコーディネーターを選定しました。

② コアメンバーによる企画案の検討

財団とコーディネーターの声掛けにより開催した、日ごろから地域で活動している自営業者や地域活性化の研究している大学の研究員などを招いたコアメンバー会議により「みんなが一堂に集い乾杯する」や多様な年代の人が交流する「年の差フレンズ」、市民がテーマごとに企画を検討・実行する「市民ラボ」といった大まかな企画案が作成されました。

(2) これからの予定

① 市民を交えた検討

企画案の実現に向けて、実行メンバーを公募する等より多くの市民の参画を得ながら実施内容を検討していきます。会議による検討ばかりでなく、実験的に多くの市民が楽しんで参加するプレ事業にも取り組み、市民の反応を得ていく過程そのものを検討の過程とし、多くの市民を巻き込んだ企画の実現に繋がっていくような仕組みとします。

② 企画の実施日程

実施日については、多くの人が参加できる日時を検討します。中心となる市民の意見等を踏まえ1日限りで終わるものだけでなく、複数回や、今後の年次に継続して市民がかかわるものになることも検討します。

6. 多摩市市制施行 50 周年記念誌刊行事業

1 事業のねらい

50 年記念という節目に多摩市地域の歴史と、市制施行と同じ 1971 年に入居の始まったニュータウン開発以降のまちの変化やあゆみを振り返り、地域への誇りや親しみをより一層育んでいけるよう「多摩市市制施行 50 周年記念誌」（以下、記念誌という。）を作成します。

2 編集の基本方針

記念誌編集の基本方針は、次のとおりです。（2017 年度の記念誌準備委員会で決定）

- (1) 現在散在しているニュータウン関連の貴重な資料を、市民の財産とし後世に伝えるとともに、今後の多摩市のまちづくりを考えていくための布石とするため、市制施行以降の多摩ニュータウンの変遷を中心とした、近現代史にスポットをあてた記念誌とする。
- (2) 「多摩市史」の成果を十分に継承し、それまでの歩みを体系的に記録するとともに、それ以降の新しい知見を加えた未来に向けた記念誌とし、次回市史を作成する際に利用できる質の高い内容とする。
- (3) 市史を刊行した平成 9 年以降について、多摩地域のニュータウン変遷に関わる有形・無形の資料を収集し、それ以前については、現在ある資料を基に編集する。現在保有している資料及び編集の過程で収集した資料は、将来の市民の利用に供することを意図して、整理・保存・管理する。
- (4) 客観的で平易な記述とし、市民に分かりやすく広く親しまれ、今後のまちづくりや子どもたちの教育にも活用される記念誌とする。

3 記念誌の構成、体裁等

記念誌の体裁や構成等は、次のとおりです。（2017 年度の記念誌準備委員会で決定）

- (1) 記念誌は、2021 年に刊行する。
- (2) 構成は、旧石器時代以降とするが、市制施行以降の多摩ニュータウン変遷に重点をおいて編集し、見開き 2 頁、1 項目 400 字程度で読みやすい文字サイズ、フォントとする。
- (3) 記述は、です・ます調を使用した文章で、写真・図・表を活用し、教育機関で活用できる内容とする。
- (4) A 4 サイズ、フルカラー、200 ページ程度とする。

4 編集体制

記念誌の編集体制は、次のとおりです。（2017 年度の記念誌準備委員会で決定）

- (1) 学識経験者及び市民等による幅広い視野からの意見・助言をもとに、編集作業を円滑に進めることを目的として記念誌編集委員会を設置する。また、編集委員会の学識経験者を監修者とする。
- (2) 編集委員会の構成
学識経験者、市民、市内関係団体
※編集委託は、これまでの史料を多く所蔵し、様々な企画展示を行っている文化振興財団とし、財団保有史料に加え、市所有の史料や市民が保持する写真等を用いて検討してきました。

5 記念誌の章構成イメージ（2019年1月25日時点）

記念誌編集委員会の議論を経て、以下の章立て、内容、ページ数で章構成を検討しています。

章の項目	章の内容	ページ数
序文		5
I. 写真で見る多摩いま・むかし	航空マップや定点比較写真など	10
II. 多摩市の環境	多摩の地形 かつての里山と生き物 まちの中で生きる生き物	12
III. 多摩市の歴史（多摩ニュータウン開発前まで）	旧石器時代から：多摩丘陵の開発のはじまりと武蔵国府の周縁地として 武士の時代（鎌倉・室町・戦国・江戸時代）（「鎌倉街道の沿道として～鎌倉時代から江戸時代までの多摩～」） 多摩村から多摩町へ～明治時代から多摩ニュータウン開発前の多摩～	51
IV. 多摩市の歴史（多摩ニュータウン開発から）	多摩ニュータウン開発～市制施行前（多摩町時代） 多摩ニュータウン開発～市制施行以降	78
V. 多摩市の現在から未来へ	再び変貌する地域 産業と観光 文化・芸術・スポーツ これからの取り組み～未来の多摩市へ～	26
資料編	統計、年表、掲載写真一覧	13
巻末		5

執筆者は、歴史研究者や開発に関わった事業者を中心に、これまでに史料を提供等いただいている市民や行政関係者等に依頼する予定です。

6 事業期間

記念誌刊行事業の期間は、2021年度の記念誌刊行までとする。

年度 市制施行	2017年度 46年	2018年度 47年	2019年度 48年	2020年度 49年	2021年度 50年
記念誌準備委員会	編集方針作成				
記念誌編集委員会			編集の進行管理		
		章構成・執筆者 ・レイアウト等検討	執筆・校正・資料整理		確認・印刷
編集業務委託		編集作業			

7. 多摩市市制施行 50 周年記念市民提案事業

1 事業のねらい

市内では日頃から、地域の魅力を活かして様々な行事やイベントが行われています。規模の大小にかかわらず、こうした行事やイベントの1つ1つが、多様なバックグラウンドを持つ本市に住まう人々の気持ちを豊かにし、地域に活力が生まれ、市の魅力を形作ってきたと言えます。こうした行事を「50周年」という一本の線で繋ぎ、一体感を育むことで、この街への愛着を醸成することを目指しています。

2 検討方針

具体的には市内の自治会・学校・法人・団体がこれまで実施してきた企画・イベントや50周年を機に新規に実施するイベントに、「市制施行50周年記念」の冠を付して市が後援することで、市内各地から市制施行50周年を祝うムードを醸成します。対象となる事業には、名義の後援に加えて、市広報や市公式ホームページ・報告書等に関連事業として記載することや、50周年PRグッズの貸与・供与などの支援を行います。主催する市民には50周年をPRする役割を担っていただきます。

事業は募集期間に提案されたものから不適切と判断されるものを除く様々な事業について選定します。市としては多くの応募が得られるように地域や団体に働きかけるとともに事業を横につなぐスタンプラリーなど、面的なネットワークでつなぐ機会を推進します。

3 スケジュール

(1)提案募集期間

2020年8月～10月（2021年1月決定）

(2)事業実施期間

2021年4月～2022年3月

8. 多摩市市制施行 50 周年記念式典

1 事業のねらい

50周年記念事業のクライマックスとして、2021年度に開催します。

いわゆる記念式典としてのセレモニーだけでなく、市民が参加できるようなイベントとの組み合わせを検討します。

具体的には、例えば記念誌発行のお披露目や、貴重な物品の展示、キャラクターグリーティング、祭やマルシェとの組み合わせ、シンポジウムやパネルディスカッション・講演会・市民の発表の場などをセットにしたパッケージを検討します。

2 実施時期・開催場所

市民の参加しやすさや実施内容の検討に合わせて開催場所を検討します。なお、2021年度までパルテノン多摩の改修工事が行われるため、参加市民数や事業内容の詳細を検討していく中で時期や場所の選定を行います。